



九曜クラブ会報 Vol.14

OPEN MIND

OPEN MIND (NPO法人九曜クラブ会報)/発行者:NPO法人九曜クラブ/発行責任者:松田 博康/編集者:広瀬 哲朗
所在地:〒104-0045 東京都中央区築地3-7-11 ラフロスビル4F / TEL:03-3541-4210 / FAX:03-3541-4210

E-mail:info@kuyoh.luflos.co.jp http://www.kuyoh.luflos.co.jp/

あけまして



おめでとう



ございます



理事長 松田博康

2010

「人を生かし、自分を生かす」

明けましておめでとうございます。

今年はワールドカップの年です。どの国の選手も地域の地域のサッカークラブで育ったプレーヤーです。地元と触れ合い、チームメイトを大切にこそ「人を生かし、自分を生かす」ことが可能になります。

そのような地域に密着した活動を展開する九曜クラブからも代表選手がきっと出てくるでしょう。

日本選手を応援するとともに、九曜クラブのそれぞれのカテゴリーでの活躍を祈ります。





A HAPPY NEW YEAR



常務理事、ジュニア・ジュニアユース代表

大多和 正直

今年は、ジュニア・ジュニアユース共に、結果が出せるように更なる飛躍の年にしたいと願っています。

ジュニアに関しては、各学年、各種大会において上位に食い込めるものの、なかなか準決勝の壁が破れず3位が続いています。今年は良いサッカーから、更に勝てるサッカーも加わろう求めています。

ジュニアユースでは、最近の新規加盟チームは、元Jリーグやスポンサーをつけたチームなど、力のあるチームが加盟しチーム数が増えています。九曜は成績を落とさず闘っていますが、そのようなチームにも勝つことにより、選手に勝者しか味わえない経験をさせてあげたいと思います。



理事、ジュニアユース監督

横山 直幸

あけましておめでとうございます。
昨年は皆様の温かい応援により、充実した1年が過ぎました。今年も皆さまのご期待に応えられるよう、皆様と楽しく過ごせるよう、スタッフ・選手一同で頑張っていきたいと思ひます。

2010年は、板橋区民大会の連覇、クラブユースの前大会で昨年以上の成績を目指します！！



理事、九曜フットボールクラブ監督

草木 友則

あけましておめでとうございます。

2009年は、東京都社会人サッカーリーグ2部（3ブロック）において、13チーム中8位（3勝6敗3分）の成績でシーズンを終えました。メンバーそれぞれが持てる力を出し尽くしましたが、非常に残念な結果となってしまいました。この事実をしっかりと受け止め、2010年は少しでも順位を上げられるようチーム一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。そして、ジュニア、ジュニアユースの関係者と共に九曜クラブを盛り上げていきたいと思ひますので、ご声援の程、宜しくお願い致します。



バサジィ大分

平町 和也（特別寄稿）

明けましておめでとうございます。

お久しぶりの人も初めましての人もいますが、2008年2月まで九曜FCジュニア・ジュニアユースのスタッフとして皆と共に汗を流していました平町和也です。

現在は、2009年10月よりFリーグ（日本フットサルリーグ）所属・バサジィ大分というチームにてフットサルをしています。フットサルとは、室内（体育館）で行うサッカーのようなものでFリーグとはサッカーというJ1に相当する国内トップの全国リーグです。

サッカーと似てはいるものの、その違いに悩みながらも毎日練習に取り組んでいます。

そんな僕から九曜の皆にこの場をお借りして、伝えたい事が一つあります。

僕はサッカーを始めて15年経ってやっと全国リーグへ挑戦出来るようになりました。一人一人の人生は色々ですがどんな時でも僕は決して諦めず、遠回りもしましたが、努力し続けたからこそ今こうやって全国を舞台に戦えていると思ひています。みんな夢や目標を持って諦めずにチャレンジしていると思ひますが、早くに達成出来る人もいれば僕のように遠回りをして達成する人もいます。

だからこそ、自分のペースで『今』を大切に夢や目標に向かって頑張ってください。

時間が合えば九曜の練習に行くので、その時は是非一緒にボールを蹴りましょう！

サッカークラブを主宰している団体は任意団体が多い。いい意味での「お仲間」意識で活動している。しかし「世間様」からみるとどうであろうか。広く社会規範やルール、マナーに合致していなければならないし、プレーはサッカー規則に準じなければならない。

イギリスでは3人寄れば「クラブ」ができるという。そして会長、副会長、書記の役割を決めるといふ。3人とは合議制を意味し、決定者と補佐が居て、書記は記録・経理と捉えれば、「広く会議を興し万機公論に決すべし」ということになるのであろう。さらにはそのクラブを継続させていくためには、目標、理念、ミッションといったものが必要であろう。年頭に当たり、今号の松田理事長の言葉をかみしめ、意を新たにしたいと思ひます。（T. H）